

日本政治学会 会報

The JPSA News

NO. 16

NOV. 1988

ご あ い さ つ

理事長 内田 満

このたび、1988年10月から2か年間にわたり、日本政治学会の運営のお世話役を仰せつかることになりました。まことに非力で、お役に立てるかどうかが、はなはだ心もとない次第ですが、会員の皆様、そして理事さらには企画、年報、文献、渉外、選挙管理などの各委員会委員長として学会運営に直接的にかかわっていただく会員の方々のお力添えをいただきながら、学会の発展のためにお手伝いさせていただければ幸いです。

ご案内のように、日本政治学会は、ことして創立40周年を迎えました。『日本政治学会年報政治学』の創刊号(1950年)所載の「学会記事」は、創立総会が、1948年11月5日に東京大学山上会議所において開催され、また第1回研究会が、翌1949年7月9日に早稲田大学で開かれたことを伝えています。この第1回研究会のおりの出席者について「80名という多数の研究者の出席を得て」と記されております。今昔の感にたえないのは、私だけではないのではないのでしょうか。ことしの広島大学での総会・研究会のおりの出席者は、約400名、会員総数は1,100名弱でした。

ところで、このような会員増は、現在の会員の中に学会創立後に生まれた方々が相当数含まれていることを意味することは、いうまでもありません。1988年度の『日本政治学会会員名簿』によりますと、判明しているだけでも、二百数十名の会員が、1949年以降の生まれであるようです。学会の懇親会のおりなどに感じられますのは、このような若い世代の会員の方々の熱気ではないのでしょうか。こんなわけで、学会が直面している課題の1つが、会員中の世代間の風通しをよくし、学会運営上の世代交代が円滑に、しかも発展的に

進行するように試みることにあることは、疑いをいれません。

日本政治学会の40年の歴史の中で起こってきたもう1つの大きな変化は、世界政治学会(IPSA)とのかかわりです。日本政治学会がIPSAに加入したのは1952年のことで、この年の9月にオランダのハーグで開かれたIPSAの第2回世界大会に当時の南原繁理事長が代表として出席なさってから、ことしの8月28日から9月1日にかけて、米国の首都ワシントンで開かれた第14回世界大会まで、日本政治学会は、連続して世界大会に代表を派遣し、IPSAと緊密な連絡を保ってきました。

この中で画期的なできごとが、1985年から88年までの3年間、武者小路公秀会員が、第13代IPSA会長に就任したことであることは、いうまでもありません。しかし、ことしの第14回世界大会後は、武者小路会員が、前会長としてIPSA常任理事会のメンバーにとどまるだけでなく、この世界大会に日本政治学会を代表して出席した1人である佐々木毅会員が、IPSAのプログラム委員会のメンバーに加わることに決まりました。IPSAの行政的側面と研究的側面の両面に日本政治学会がかかわりをもつことになったわけで、日本政治学会のはたすべき国際的な役割が、さらに一段と大きくなってきたといえていいでしょう。

この文脈で、日本政治学会がいま積極的な対応をせまられている問題が、IPSA世界大会の日本開催問題にほかなりません。この問題が前理事会からの申し送り事項の1つになっているのは、まことに当然のことで、もはやこの問題の検討を回避して通ることは、できない相談のように思われます。日本政治学会が今日、国際化の大波にさらされているということは、厳然とした事実とし

て受けとめざるをえません。

さらに、前理事会からの申し送り事項の中には、そのほかに「学術会議の会員選出方法について」「政治学教育に関する臨時委員会の発足について」「政治学と情報に関する臨時委員会の発足について」がありますが、いずれも日本政治学会と政治学的环境の変化に対応するニーズにかかわって

ることは、いうまでもありません。

このようにみてまいりますと、まさに課題山積といったかっこうで、立ちすくむ思いを禁じませんが、会員の皆様の知恵とエネルギーとご叱正に支えられながら、課題の糸をときほごす試みに取り組むことができたと考えております。重ねてお力添えをお願いいたします。

IPSA 第14回世界大会参加報告

世界政治学会（IPSA）第14回世界大会は、1988年8月28日から9月1日まで、米国ワシントンD.C.のシェラトン・ワシントン・ホテルで開かれた。出席者は、40か国からの総数1,200名余りであったが、そのうち日本政治学会関係の出席者は25名ほどで、その中には報告者としての白鳥令、武者小路公秀、村松岐夫会員、討論者としての阿部齊会員、ならびにIPSA理事会への日本政治学会代表あるいは代表オルタナティブの資格で参加した有賀弘、佐々木毅両会員と私の3名が含まれる。

今回の世界大会の主題は、「地球政治学へ向け（*Toward a Global Political Science*）」で、従来の国単位で、国益志向的に形成されてきた政治学から脱却した、地球システムの文脈での政治学の構想をねらいとし、「政治学の地球化（*globalization of political science*）」への条件と課題をさぐる、いわば予備的討議を試みることに主要な目的があった。用意されたパネルの総数は、約250にのぼったが、それらの中でもっとも直接的に主題にかかわっていたのが、「社会科学の地球化」、「地球的政治理論の展望」、「政治教育と政治的社会化の地球化と国際化の展望」、「地球的政治理論へ向けて」などをテーマとしたパネルである。

ちなみに、このうち「社会科学の地球化」は、全体研究会議の1つとして企画され、カンディド・メンデス、ディヴィッド・イーストン、カール・ドイッチェ、武者小路公秀などの諸氏が、それぞれ「社会科学の地球化」、「政治学の地球化」、「社会科学は、どのようにしていっそう地球的になりうるか」、「地球的政治学へ向けて」などの報告をおこなった。今後の政治学研究の行方を示

唆するものというべきであろうか。

なお、今回のIPSA世界大会と連続する形で、9月1日から4日まで、シェラトン・ワシントン・ホテルに程近いワシントン・ヒルトン・ホテルでアメリカ政治学会（APSA）の第84回年次大会が開かれたが、この機会を利用してIPSAとAPSAの共同企画で、8月31日にヒルトン・ホテルで「1988年アメリカ大統領選挙」を主題とする全体研究会議が開催された。

大会中に開かれたIPSA理事会では、次期第14代会長としてアルゼンチンのG・オドンネル（G. O'Donnell）氏が無投票で選出された。ちなみに、前回（1985年）のバリ世界大会から今回の世界大会まで会長をつとめた武者小路会員は、IPSAの規約により、前会長として引き続き3年間常任理事会のメンバーに残ることになっている。また、これまでカナダのオタワ大学におかれていた事務局が、今回の世界大会後にノルウェーのオスロー大学に移ることになり、事務局長も、1976年から12年間つとめたオタワ大学のジョン・E・トレント（John E. Trent）教授から、オスロー大学のフランシスコ・シェルバーグ（Francesco Kjellberg）教授に引きつがれた。

さらに、人事面で特筆にあたいするのは、世界大会中に開かれたオドンネル新会長の下での第1回常任理事会で、次期プログラム委員会のメンバーに佐々木毅会員が選任されたことである。これによって、日本政治学会は、運営面で武者小路会員、研究企画面で佐々木会員を通じて、はじめた運営・研究企画の両面でIPSAの中核とかかわりをもつことになったわけで、日本政治学会の国際的役割の増大を示す象徴的なできごとというべ

きであろう。

なお、今回のIPSA理事会において、1991年の第15回世界大会がアルゼンチンのブエノスアイレスで、1994年の第16回世界大会が西ド

イツのハンブルグで、それぞれ開催されることに決定したことも、付記しておきたい。

(前渉外委員長・内田満)

1988年度第1回 理事会

本年10月1日、広島大学において1986～88年度理事会(旧)が行われ、次の各事項が報告、審議、承認あるいは決定された。

[常務理事・新委員長について]

内田次期理事長より、次期常務理事に藤原保信(早稲田大学)会員を指名した旨、報告があった。また、各委員会の委員長は次の通り、任命された。

企画委員会 田中治男会員(1989年)

安世舟会員(1990年)

年報委員会 阿部 斉会員(1990年)

村松岐夫会員(1991年)

文献委員会 中村勝範会員(1989年)

西田 毅会員(1990年)

渉外委員会 佐々木毅会員(1989・90年)

選挙管理委員会 木坂順一郎会員

[委員会報告]

1. 企画委員会

福井企画委員長より、開催中の研究会について、分科会Aの討論者の変更について報告があった。

2. 年報委員会

山口年報委員長(1988年度)より、1988年の年報は1989年3月に出版予定である旨、報告があった。

三谷年報委員長(1989年度)より、既に7回の研究会が開催された旨、報告があった。

3. 渉外委員会

内田渉外委員長より、IPSAに関する報告があった(詳しくは、本会報掲載の内田理事長による「ごあいさつ」および「IPSA第14回世界大会参加報告」を参照)。

なお、IPSAの会費値上げが決定され、団体会費は90年度より\$1616(現在、\$1469)、個人の3年会費は89年度より

\$90(現在\$85)となった。

4. 文献委員会

阿部文献委員長より、272名の自己申告があり、原稿の最終チェック中である旨、報告があった。

[理事選出規程について]

成次常務理事より、次の理事選出規程の改正について提案があり、承認された。

第四条 一、選挙事務をとり行なうため、理事長は選挙管理委員長を任命する。

二、選挙管理委員長は五名以上一〇名以下の会員により、選挙管理委員会を組織する。

第六条(追加)

四、当選人の繰上補充は行わない。

第七条 一、前条一項の当選人は理事選考委員会を構成する。

二、理事選考委員会は、一五名以内の理事を、地域、部門、専攻、年齢等に留意して選考する。

三、理事選考委員会は当選人の欠員補充をすることができる。その場合には、前項の留意条件にとらわれないものとする。

第八条 理事長は、選挙による選出理事及び選考委員会による選出理事を、理事として総会に報告・推薦し、その承認を受けなければならない。

[次期理事会への申し送り事項]

松下理事長より、次のような次期理事会への申し送り事項が説明され、承認された。

1. 学術会議の会員選出方法について

2. IPSA世界大会の日本での開催準備につい

学 会 ニ ュ ー ス

- て
3. 名簿の改訂期間について
 4. 政治学教育に関する臨時委員会の発足について
 5. 政治学と情報に関する臨時委員会の発足につ

- いて
- [新入会員]
- 44名の入会並びに再入会が承認された。氏名等については、会員異動欄を参照

1988年度第2回 理事会

10月1日、広島大学において1988～90年度理事会(新)が行われた。

[協議事項]

1. 監事選任の件
木村雅昭監事の任期満了に伴い、後任として今村都南雄会員を選任した。
2. 選挙管理委員長選任の件
理事選出規程の改正に伴い、木坂順一郎理事を選出した。

3. 顧問推薦の件
松下圭一会員を顧問に推薦することに決定した。

[報告事項]

1. 各委員長委嘱の件
1989～90年度の各委員長が委嘱された。
2. 事務局担当常務理事および幹事選任の件
事務局担当常務理事に藤原保信会員、幹事に飯島昇蔵会員がそれぞれ委嘱された。

1988年度 総 会

10月1日、広島大学にて1988年度の総会が開催された。議事次第は次の通り。

1. 開会挨拶 広島大学 山本会員
2. 開催挨拶 広島大学 今中理事
3. 理事長挨拶 松下理事長
4. 各委員会報告
企画委員会 福井委員長
年報委員会 山口委員長(1988年)
三谷委員長(1989年)
渉外委員会 内田委員長
文献委員会 阿部委員長

(詳細については第1回理事会における報告を参照)

5. 1987年度決算及び監査報告
成沢常務理事
木村監事
6. 1988年度予算報告 成沢常務理事
7. 理事選出規程の改正 成沢常務理事
8. 次期理事長挨拶 内田次期理事長
9. 次期委員会紹介 内田次期理事長
10. 監 事 選 任
11. 新 入 会 員
12. 閉 会 挨 拶 広島大学 山本会員

1988年度第3回 理事会

10月2日、広島大学において1988～90年度理事会(新)が行われた。

[協議事項]

1. I P S A基金運営規程一部改正の件

I P S A基金運営規程を次のように改正することが了承された。

< I P S A基金運営規程 >

—旧規定—

3. (運営の原則)本基金の運営は、1982

年6月26日付日本政治学会理事会において、右組織委員会より申し入れ、了承された報告の趣旨に沿い、原則としてその果実をもって運用し、日本政治学会がIPSA執行委員会に代表を派遣する際の旅費の一部または全額にあてるものとする。

—新期程—

3. (運営の原則)本基金は、1982年6月26日付日本政治学会理事会において、右組織委員会より申し入れ、了承された報告の趣旨に沿い、日本政治学会がIPSAの運営・執行にかかわる代表を派遣する際の旅費の一部または全額にあてるものとする。

2. 新入会員承認の件

5名の再・新入会員が承認された。氏名等については、会員異動欄を参照。

3. 次回理事会の件

12月3日(土)午後1時30分から早稲田大学で開催することが了承された。

[報告事項]

1. 各委員会報告

各委員会から活動状況について報告がなされた。

(企画委員会)

1989年度研究会(神奈川大学)について、「フランス革命」を共通論題とする旨、田中(治

男)委員長から報告された。

1990年度研究会(熊本大学)について、テーマ選択・委員選任が準備中である旨、安委員長から報告があった。

(年報委員会)

1989年度年報のテーマを「18世紀の革命と近代国家」とする旨の阿部委員長のメモが、藤原理事から紹介された。

1990年度について準備中である旨、村松委員長から報告された。

(文献委員会)

1989年度について、中村(勝範)委員長から、1990年度について、西田委員長から、それぞれ準備を急ぐ旨の報告があった。

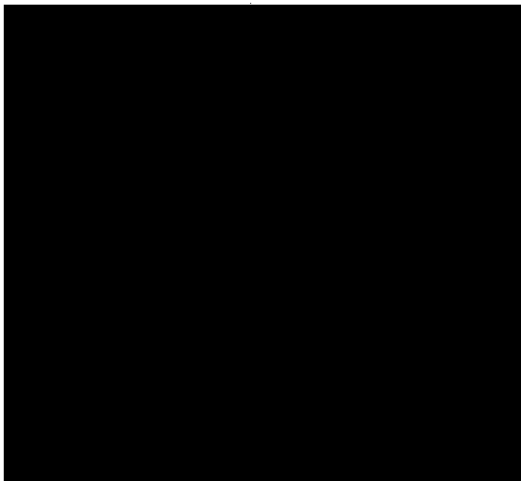
(渉外委員会)

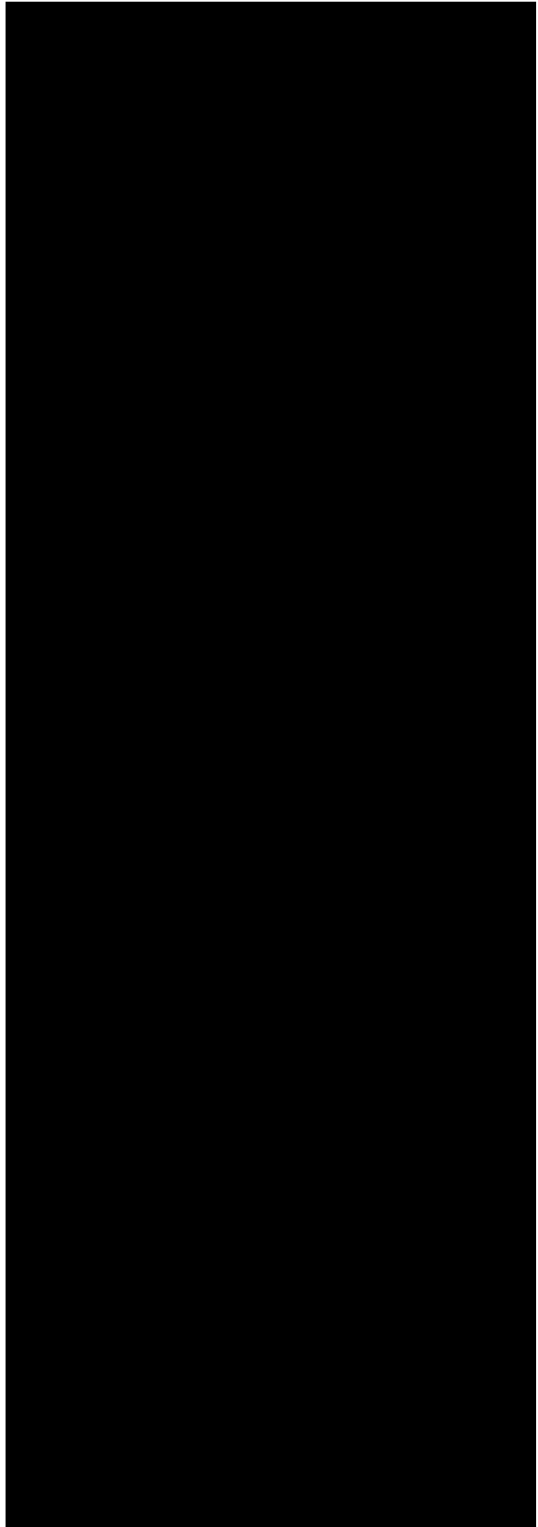
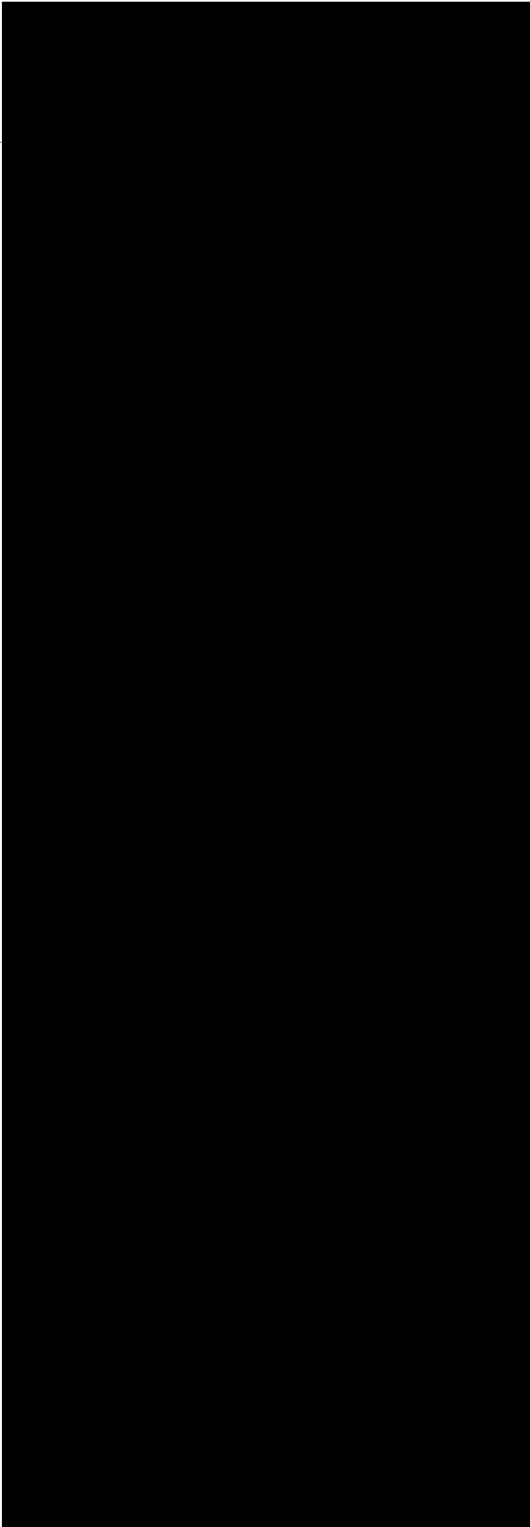
1989～90年度の活動方針は、①IPSAの円卓会議、世界会議の日本政治学会での開催の検討、②国際交流促進を目的とする情報収集、協力のネットワークづくりのための渉外委員会の整備・増員、③会員の研究活動の世界への紹介の方法の研究、④IPSAの常任委員会、プログラム委員会の進行状況の理事への報告であるという趣旨の佐々木委員長のメモが、北岡理事から紹介された。

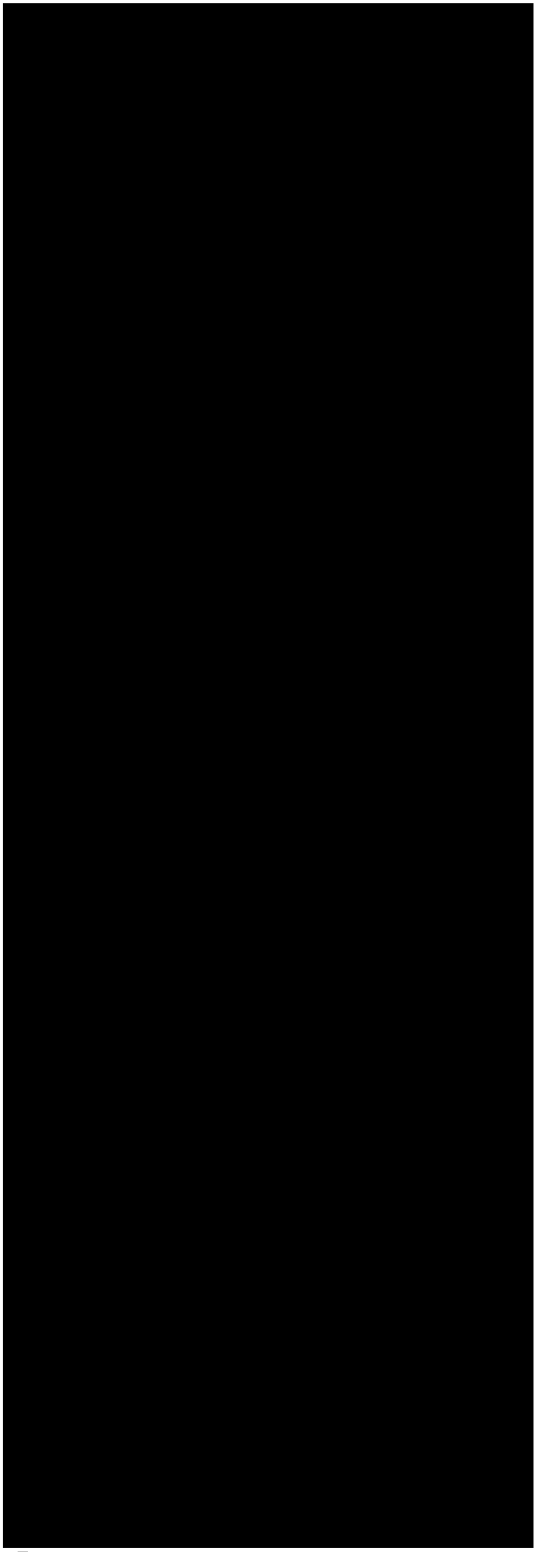
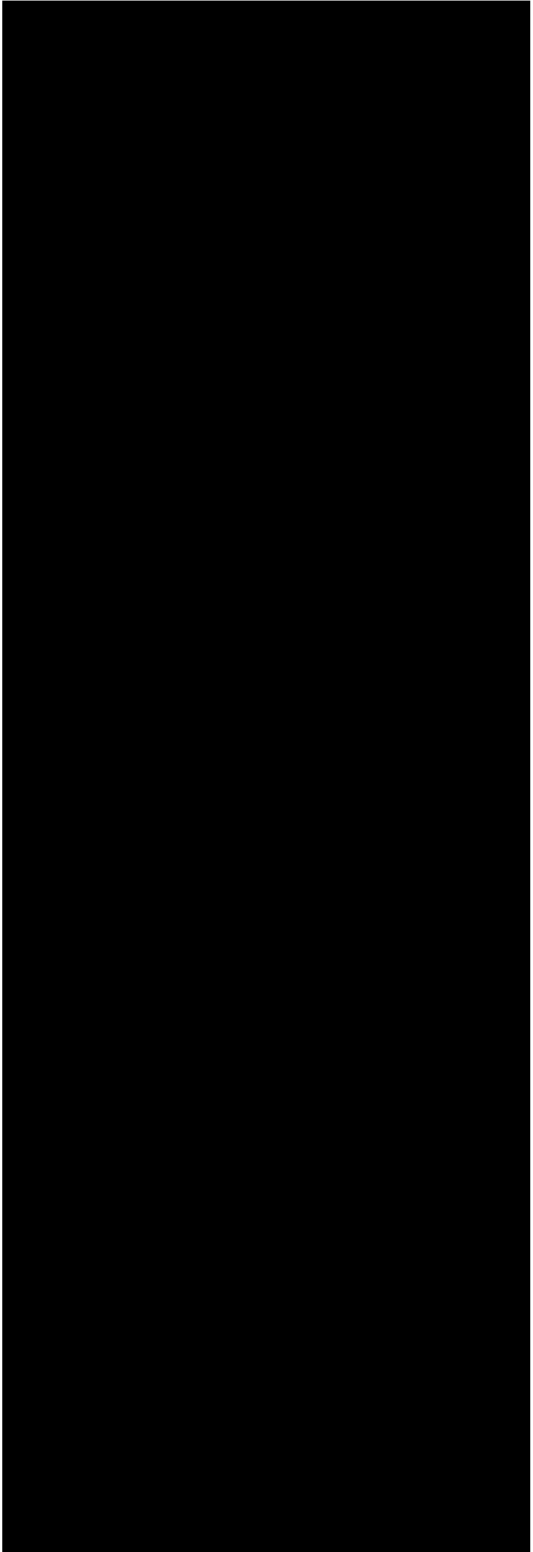
2. 前理事会からの申し送り事項の件

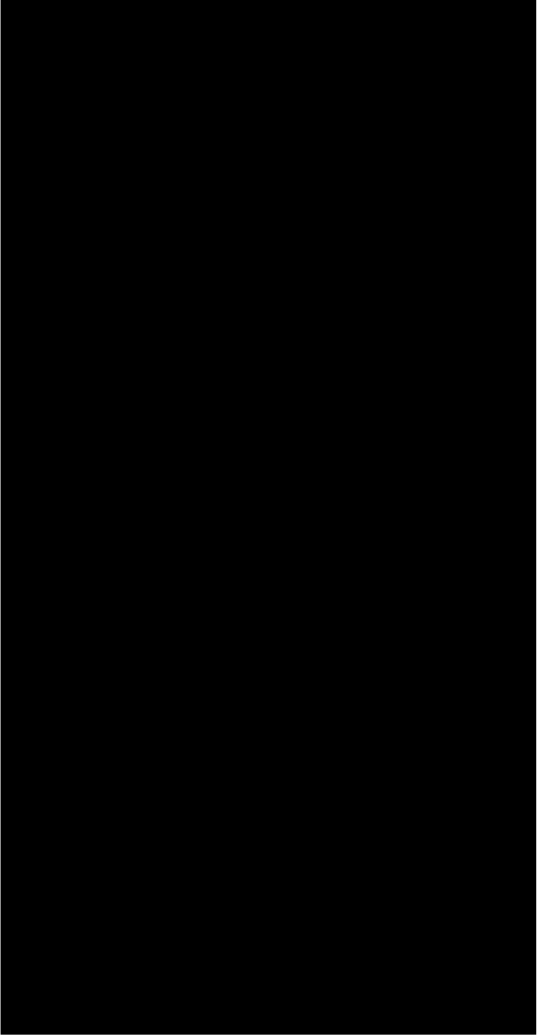
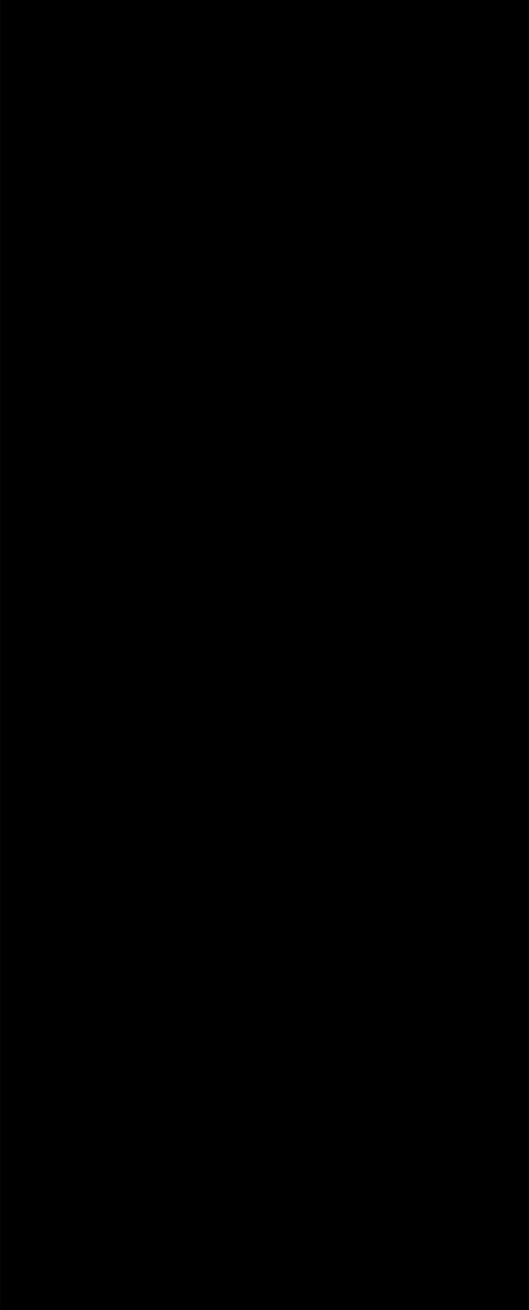
内田理事長より、前理事会からの申し送り事項の報告とその背景説明がなされた。

会 員 の 異 動









1988年12月5日
発行 日本政治学会事務局
藤原保信
〒160 東京都新宿区西早稻田1-6-1
早稲田大学大学院政治学研究室
TEL 03-203-4141-3421
郵便振替番号 東京0-84250
加入者名 日本政治学会